

平成 24 年 2 月 25 日記

宮島を訪れて

岡山歴史研究会 会員 濱手英之

先日、安芸の宮島にいった。ロープウェイが定期点検のために運休で、残念ながら山には登れなかったが美しい景色に加え蘭陵王の舞？をみることができた。結婚式を挙げられた方に祝福と感謝である。

厳島神社は平清盛が現在の形に整えたようだが、彼の生きた時代にも現代に通じる事象は多々あったようだ。

共通事項の一つは当時がデフレ経済であったことである。宋銭は当初、銅筒や仏像を作るために多く輸入されたと考えられるが、清盛の時代に再び普及期に入ったようである。最初の国産貨幣発行から数百年がたち、素材の純度も上がった宋銭が大量に輸入されてだんだんと普及していく。材料としても価値のある宋銭は、皆に認められどんどん浸透していったことであろう。それまで貨幣代わりであった米や反物より断然扱いやすく、貨幣の普及は思ったより素早く進行したかもしれない。しかしそうすると、季節風を利用する帆船貿易では往復に大変時間がかかり、金融政策もままならず、貨幣不足がおこり、デフレとなるのは全く自然なことであろう。



そのような背景もあり、宋との貿易を押さえた平氏は巨万の富を築き、収入の多くを米等現物に頼っていた朝廷や貴族をこえていったと考えられる。もちろん朝廷等も黙っていたわけではなく貨幣の使用禁止令を何度も出しているが大きな勢いを止めることはできない。

デフレ経済のしたでは、貨幣を持つものはますます富んでいく。

しかし、平氏は滅亡した。突き出た力を誇った平氏の力を弱めることがあったのであろうか？

どうもそれは気候変動のようだ。1180 年頃から凶作が多くなる。しかも、それまでも地域を限定した災害や不良がはあったようだが、全国的、いや世界規模の寒冷化がはじまったらしい。西日本においては干ばつで農作物の収量が激減している。人々は飢え、日本の人口は 700 万人から 600 万人まで減ってしまったようだ。

このような危機が起こるとそれまでのデフレは嘘の用におさまり、それは一気にハイパーインフレへと変わっていく。一次産品の価値が大きくあがり貨幣の価値は落ちる。今までの何倍も何十倍も、ひょっとするとそれ以上食べ物は高くなったかもしれない。貨幣に頼った公共工事は難しくなる。そして背景を貨幣に頼っていた者は力が落ちる。



借金で首の回らなかった者が生き返るかもしれない。社会は大きく変わる。

いまだに宮島に行っても感じられる平氏の強大な力。このような背景もあって失われたのであろう。



最近の研究で地球寒冷化をもたらす太陽活動の変化がかなり解明されている。この6500年ほどの間に15回起き、そのうち13回が寒冷化した事象が最近観測されている。前回、江戸前期では、70年ほど続き、真夏に東北地方で雪が降ったり、大凶作にみまわれている。CO₂の増加で地球が温暖化するのは事実であるが、太陽活動の変化との相殺が考えられる。地球は今まで6度の全球凍結も経験している。

凍結も経験している。

平清盛が生きた時代に寒冷化やハイパーインフレをもたらした太陽活動の変化が再び起きていると科学者はいう。このタイミングで清盛を取り上げたNHK連続ドラマはすごい。自然と人間との不思議と共鳴するような力を感じずにはいられない。

歴史も地球環境に翻弄されてきたのは事実であろう。